

## 地球環境保全

私たちを取り巻く今の環境は、地球温暖化や気候変動などにより大きく変化してきています。こうした環境の変化を抑えるための環境保全に対する環境省やソプラノ歌手の取り組みについても取り上げました。



### 医療と循環経済

環境省環境再生・資源循環局 次長 角倉一郎

#### 医療の環境負荷

医療の環境負荷の大きさが指摘されています。

国際 NGO「Health Care without Harm」らが2019年に公表した「Health Care's Climate Footprint」では、世界の医療分野から排出される温室効果ガス<sup>※1</sup>の量は20億トンであり、これは世界の全排出量の4.4%に上るとされています。しかも、この20億トンのうち約1億トンは日本からの排出であるとされており、日本の医療分野からも多くの温室効果ガスが排出されていることが分かります。

また、医療廃棄物に目を向けますと、日本では、年間40万トン～50万トンの感染性産業廃棄物が生じておりますが、その大半が焼却又は埋立処分されており、再生利用されている割合は10%未満です。これは、他の産業廃棄物と比べて非常に低い値です。

このように、医療の環境負荷は無視できないものであり、これを低減していくことが気候変動を始めとする環境問題の解決に向けて極めて重要です。

#### 医療と循環経済

医療の環境負荷低減に向けて、鍵を握るのが「循環経済（サーキュラーエ

コノミー）」への移行です。

天然資源を大量に投入して製品を製造し、それを一度使用したら廃棄するという従来型の経済システムから、今ある資源や製品を最大限活用する循環経済へと移行していくことで、天然資源の使用量や廃棄物の発生量・焼却量が減るのはもちろん、ネットゼロ<sup>※2</sup>の実現にもつながります。例えば、資源循環が日本の温室効果ガス全排出量の36%に貢献し得るという試算もあります。

さらに、循環経済には経済的なメリットもあります。これまでは費用を支払って他者に処理を委託していた使用済み製品を、再使用可能な製品や新たな製品の原材料として流通させることで、処理費用の削減や新たな利益の獲得ができる可能性があります。

#### 今後の取組

これからは、一度使用した製品も、廃棄物ではなく資源として活用していく時代です。そうした観点から、環境省としても、循環経済への移行に向けた様々な施策を実行しています。

医療関係では、2021年に、医薬品医療機器等法及びその関連法令に従って行う単回使用医療機器（SUD）の再製造等に廃棄物処理法の規定は適用さ



プラネタリーヘルス専門家会合にパネリストとして参加

れない旨を、通知で明確化しました。これにより、SUDの再製造等をこれまで以上にしやすい環境整備ができたと考えております。さらに今後は、医療廃棄物について、適正処理を担保した上でいかにリユース・リサイクルを促進していくか、関係の皆さまのご意見も伺いながら、検討していきたいと思っております。

本年2月には、日本政策医療機構（HGPI）のプラネタリーヘルス専門家会合に私も参加させていただいたところであり、このご縁をきっかけに、皆様と一緒に医療分野における循環経済への移行を進めてまいりたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いたします。

#### 日本医療政策機構（HGPI）

2004年に設立された非営利、独立、超党派の民間の医療政策シンクタンク。中立的に幅広いステークホルダーを結集し、医療政策における国内外の課題の解決に向けて、アジェンダを設定し、新たな視点・論点を提示している。

#### プラネタリーヘルス専門家会合

日本政策医療機構が開催した会合。医療廃棄物と環境汚染に対する包括的な影響に焦点を当てた議論が交わされた。

※1 医療機関からの直接的な排出だけでなく、医療機関で使用する電気・熱を別の場所で製造する際の排出、医療機器の製造に伴う排出、医療廃棄物の処理に伴う排出なども含む。

※2 温室効果ガス排出量を実質ゼロにすること。



interview

## 美しい地球は、私たちの心のハーモニーから

### 「鎮守の森」環境チャリティコンサートの取り組み

ソプラノ歌手の雨谷麻世さんは、2002年より、環境省後援で地球環境をテーマにしたチャリティコンサートを開催し、環境保護活動に取り組まれています。当財団の長谷川理事が雨谷さんに環境チャリティコンサートへの想いをうかがいました。

—雨谷さんが「鎮守の森の再生」をテーマとする環境チャリティコンサートを始められた理由を教えてください。

環境チャリティコンサートを始める前から、子供のためのチャリティコンサートを開催していたのですが、子供たちの未来を考えた時、鎮守の森のある“ふるさと”がなくては行けないと思いついたんです。

日本には、「鎮守の森」という言葉があり、先人たちが森を大切にしてきた文化があります。「木」がないと、心の「気」も枯れてしまうし、生活もできなくなってしまう。ちょうど、環境省が後援をしてくださることとなり、私自

身「森」が好きだということもあって、「鎮守の森ルネサンス」環境チャリティコンサートとして「子供」と「森」をテーマにリスタートいたしました。

人の心が元気であれば環境を守れない。私の歌で皆さんの心を元気にしたいですね。

—チャリティコンサートの収益の一部は、どのようなところに寄付されていますか？

森と子供に関する団体へ寄付をしています。たとえば、緑の募金を進める林野庁の公益社団法人国土緑化推進機構や東日本大震災による震災孤児などへの支援のための「ふくしまこども寄附金」などがあります。最近では自然災害が多いので、関係ある団体へ寄付をさせていただいております。

—今年4月19日に開催された「環境チャリティ・コンサート vol.87」では伊藤信太郎環境大臣が参加されました。印象に残ったことを教えてくださいませんか？

ステージに上がっていただいております。



ソプラノ 歌手

あまが いまよ  
雨谷麻世氏

プロフィール ●東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。クラシックのほか、レパートリーは幅広くジャンルを超えて歌い上げるその声は「魂を揺さぶる究極のクリスタル・ヴォイス」と各界から絶賛されています。当財団の松本代表は「Mayo partners」後援会長として、雨谷さんの活動を応援しています。

ししたのですが、その時に環境チャリティコンサートについて「始めることは簡単だが続けるのはとても難しいこと。お客様も音楽を楽しみながら社会に貢献することができる。とても素晴らしいことです！」という嬉しくありがたいお言葉が心に残っています。

—厳島神社や吉備津神社などで奉納コンサートを開催されていますが、今年3月3日には京都の国宝「三十三間堂」で奉納コンサートを開催されました。その時の様子を教えてください。

三十三間堂では、毎年3月3日に「春桃会」という法会が行われています。今年は記念すべき20周年にあたり「三十三間堂・第20回春桃会 奉納コンサート」として、初めて歌のコンサートを開かせていただきました。私が鎮守の森や子供のためのチャリティ活動をしているということで、お声がけくださったようです。

地元合唱団の子供たちとのコラボもあり、背中から観音様の「気」も受けて、とても楽しく歌わせていただきました。やはりコンサートホールでは作れないお客様との空気がそこにはあります。YouTubeでも配信していますので、ぜひご覧ください。

—今後の抱負を教えてください。

はい。環境チャリティコンサート100回を目指して頑張ります。



京都の国宝・三十三間堂「第20回春桃会」奉納コンサート

YouTubeで三十三間堂「第20回春桃会」奉納コンサートを配信しています。ぜひご覧ください。

→ <https://www.youtube.com/watch?v=YNvZSjsZMDg>





## R-SUDに関する活動

2017年7月に単回使用医療機器の再製造 (R-SUD) に関する新しい制度が創設されましたが、未だ国内では広く普及している状況ではありません。当財団はR-SUD推進協議会の事務局として、普及促進のための活動を継続しています。

## 第10回日本医療安全学会学術総会でランチョンセミナー

4月13日、東京大学本郷キャンパスで開催された日本医療安全学会(大会長: 渋谷健司氏)において、「地球環境にやさしく、安全性も高い単回使用医療機器再製品を使おう」というテーマでランチョンセミナーを共催しました。

演者は、上塚芳郎先生((一財)松本記念財団顧問/社会医療法人社団・順江会理事)、座長は、感染症コンサルタントの青木眞先生が務めました。アンケートから、R-SUDに関して半数以上が初めて知ったという結果で、良い周知の場となりました。



## スキルアップセミナー 2024 福岡

8月27日、福岡県医療機器協会の理事も務めるサクラ精機(株)の芥川祐輔氏より、医療機器販売業のスキル向上を目的としたスキルアップセミナーにおいて、R-SUDに関する講師依頼がありました。6月1日より、R-SUDの診療報酬加算(特定保険医療材料)が始まったこともあり、「今注目される再製造単回使用医療機器(R-SUD)」と「R-SUDの海外動向」というテーマで、上塚先生と長谷川財団理事が講演しました。このセミナーは、医療機器学会が認定する医療機器情報コミュニケーター(MDIC)の更新研修であり、参加者のみなさんは最後まで熱心に聴講くださり、活発な質疑応答がなされました。



講演中の一コマ



上塚先生(左)と 司会の芥川氏(右)

## ポジティブヘルス～あなたにとって健康とは？

## 第2回「ポジティブヘルス」実践者研修を開催

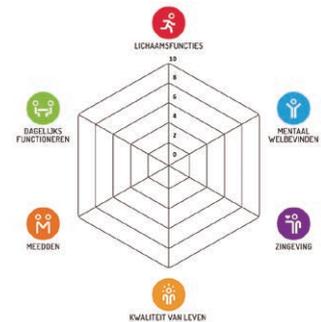
人生の最期まで、健康に生きることは誰しもの願いです。では、あなたにとって「健康」と感じるのはどのような時でしょうか？

オランダの家庭医、Dr.Huberによって提唱された「ポジティブヘルス」は、「生きがい」に注目し、病気があっても前向きに生きる力(レジリエンス)を健康と捉えています。当財団は、早くから本人主導にフォーカスしたこの健康概念に注目し、ホームページや絆ニュースで紹介してきました。

2024年4月～5月、コロナ感染症の発生などで中断していた日本での第2回ポジティブヘルス実践者研修が一般社団法人ポジティブヘルスジャパン(理事長: 紅谷浩之氏)の主催で開催されました。当財団は、今回も研修プログラムにかかる費用の一部を助成しました。全3回のうち、2回は国内(軽井沢、福井)で、3回目はオランダにて開催され、15名が新たに研修を終了しました。今後の展開が楽しみです。



講師の先生方(後列真ん中 Dr.Karolien 前列 通訳のシャボットあかね氏)



〜くもの巣ツール〜  
6つの健康の次元から構成されるツール(レーダーチャート)。患者や医療従事者の理解を深めるのに役立ちます

ポジティブヘルスについてはこちらをご覧ください。  
松本記念財団HP <https://www.matsumotofoundation.com/netheland>



修了証を手に記念撮影(オランダ)



# 慶應義塾大学大学院における 医療経営人材育成の取り組み

慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科／経営管理研究科 特任教授 **はい えいしゅ 斐 英洙**



**プロフィール** ●奈良県出身。1998年医師免許取得後、金沢大学第一外科に入局。大学院では外科病理学を専攻。慶應義塾大学院 経営管理研究科を首席で修了しMBAを取得後、ハイズ株式会社を創設し、全国各地の病院経営のアドバイザーとして活躍。また、慶應義塾大学大学院特任教授はじめ複数の客員教授や厚生労働省の公職を務める。著書多数。

近年、医療機関経営の厳しさが増えています。加速する高齢化、重篤な患者の増加、生産年齢人口の減少、インフレによる物価高などの外部環境が大きく変化しています。重要な社会インフラである医療機関を健全かつ継続的に運営・経営するために、医療機関経営に特化した経営人材は極めて重要です。特に、大学病院は高難度の医療を提供し、かつ地域の大规模基幹病院としての役割を担う必要性があり、健全な経営の必要性はさらに高いものです。これらの流れを踏まえて、文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」が生まれ、慶應義塾大学大学院の『ケースとデータに基づく病院経営人材育成』プログラムが採択されました。

本プログラムは2018年度から始動しており、革新的な医療技術開発と実践の最前線である大学病院における構想力、戦略的な意思決定、実行力に富んだ実践的な経営リーダーを育成することを目標としています。特に、慶應型ケースメソッドに則ったケースディスカッション

をベースとする教育手法は、絶対解がない病院経営において議論の中から生まれる“納得解”を導き出す手法として好評を博しています。また、本プログラムは、健康マネジメント研究科・経営管理研究科・医学研究科の3つの大学院の研究科の協働で運営されており、それぞれのエキスパートが横断的かつ融合的に議論する、まさに学際的なプログラムとなっています。特徴である「慶應型ケースメソッド」は、病院経営のリアルな事例をもとに作成されたケース（事例）を参加者が当事者意識を持ちながら、答えがないリアルワールドの経営に向き合って議論する形で進められます。「あなたが院長ならどうする？」と教員から絶えず意思決定を求められることで、事実を的確に判断し、健全経営に資する意思決定を考え抜く、胆力を持った未来のリーダーを育てます。（一財）松本記念財団様からは貴重な御支援をいただき、未来の医療経営人材の育成に有効活用させて頂いております。

これからも、地域に必要な医療機関を健全に運営し続けることができるように、その中核を担う未来の医療経営人材を育ててまいりたいと考えております。



授業の様子

ご興味ある方はこちらのHPをご覧ください。  
→ <https://keio-mcd.ac/>



Hola!

## スペイン語講座を始めました!

本年5月から、新たな外国語研修としてスペイン語講座をスタートしました。講師は、キューバ生まれで、日本滞在歴約30年のラリス高山先生です。日本でのスペイン語のインストラクター歴は27年のベテランで、太陽のように明るい素敵な先生です。過去、松本代表理事がキューバ大使館のご紹介で、ラリス先生にスペイン語を習っておられ、その「絆」が新たに繋がりました。

現在は、日本橋のサクラグローバルホールディング(株)にて、原則月2回、夕方1時間、実施しています。まずは挨拶やレストランのオーダーの仕方など、先生の方針で「声に出して試してみる!」ところから始めています。また、今後はオンライン講義も検討できればと思っています。

Encantada!



ラリス先生(右)



アドバイザーの  
飯田徹氏

Gracias!



明るく元気に